

一心



柳 幹 康

仏教の核心を示す際に禅宗でしばしば用いられる言葉に「一心」というものがあり、白隠も仏教の思想・実践を説明する際にこの言葉をししばしば用いています。今回はこの「一心」について見て参ります。

まず「一心」とは唯一絶対の心であり、本来的に仏である我々ひとりひとりの心だと言います。たとえば白隠は「一心」を「仏心」と言い換えたうえで、それが「衆生においても穢けがれたり減ったりすることがなく、仏にあっても清きよまつたり増えたりすることがない」と述べています（『遠とお羅天釜』巻下）。そもそも白隠によれば「仏（悟りし者）」と「凡夫」（迷える者）は隔絶した別個の存在ではなく、仏の心たる「一心」を看取しているか否かの状態の差でしかありません。白隠は言います、「これを見失う時は輪廻の世界に沈み苦しむ衆生となるが、ハタとこれを看取すれば忽たちまち無上の悟りを完成させ、この世に

比類なき大聖（＝仏）となる」（『仮名律 附たり
新談議』）。

仏が説き示した法門は八万四千種もあつたと
されますが、白隠によればそれは「凡夫であつ
た時から間違ひなく具わつていた仏の本性（＝一
心）の有り様をそのままにお説きになつたもの」
であつて、各種各様の教説はみな「一心の別名
にすぎない」のでした（『遠羅天釜』巻下）。

さらに白隠は言います、「三教の聖人も實際
のところはほぼ同じである。実践の深淺高下
により得られる力こそ異なれ、最初の一步はみな
同じなのだ。儒家は「至善」「未発の中」（感情
が生じる前）といい、道家は「守一無適」（心
を散じることなく集中すること）といい、神道
は（神の生まれる）「高間原」といい、……（仏
教）諸宗の祖師は坐禅や読経を勧めるが、これ
らにはみなそれぞれ実践を通じて集中させ、純一
無雜なる本来の境界（＝一心）へ回帰されるた

めの方便に他ならぬ」（『遠羅天釜』巻下）。つ
まり白隠によれば中国の儒道二教や日本の神道
など様々な教えがあるものの、それらはみな最
終的には一心に帰着するのであり、究極的には
同じものだといふのでした。

では具体的にはどのようにして、この一心へ
と回帰するのでしょうか。白隠が示すその実
践の手引きを以下に引き、今回の結びといたし
ます。

およそ心ある者で、この仏の本性を具えぬ
ものはただのひとりもない。もしも自分
自身に向かつてただただ参究していくので
あれば、三日の労力をかけることもなくハ
タと己（が仏心）の靈妙な光を見ることがだ
ろう。（『荊叢毒藥拾遺』）

己に本より具わる妙法（靈妙なる真理）の

一心と聞いたところで、自分の心を見て取るに如くはない。自分の心とはどのようなものか。白いものだろうか、赤いものだろうか。ぜびぜび一度(しかと)見て取らねばならぬと勇猛な甲斐甲斐しい志を奮い起こし、大誓願を立てて昼も夜も参究してみよ。

〔「遠羅天釜」巻下〕

……このように問う心とは何なのか。坐る時にも参究し、立つ時にも参究し、騒がしい所でも静かな所でも、行く時も止る時も、坐る時も臥す時も、縦から横から参究し、参究に参究を重ねよ。ついに参究すべきところが無くなると、普段の心の(虚妄な)働きが全て無くなり、身も心も透明なガラス瓶の中にいるようで、自他ともに消え、参究する心もろとも一斉に消失する。この時、恐れることなくただただ参究して

いくのであれば、忽然と氷の層が砕け散り、透明な玉でできた楼閣が瓦解するように感じ、全世界は明々白々、内も外もカラリと開け、立つも坐るもハッキリとし、この生涯で未だかつて見たことも聞いたこともないような大きな喜びがあるだろう。この時ますます心を奮い立たせ一瞬の間無く参究していけば、心と世界が一つになり、仏と凡夫の差は消え、捨てるべき迷いの世界も求めるべき悟りの世界も無くなり、修めるべき坐禅や智慧も、相違うような名も実も無くな(り)、真の悟りの世界へと至ることであろう。

〔「荊叢毒藥」巻五〕

柳幹康(やなぎ みきやす)

一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士(文学)。東京大学東洋文化研究所准教授・花園大学国際神学研究所客員研究員(副所長)。著書に『永明延寿と「宗鏡録」の研究——一心による中国仏教の再編』(法蔵館)。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の郵便はがきを使用し、各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。

*ㄆ切りは毎月1日です。

『花園』へのご意見・ご感想など

本誌へのご意見・ご感想など、「編集室花園係」までお送りください。お待ちしております。

送り先

〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園 係

*住所、氏名を必ずお書きください。

*俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)

*なお投稿はお返しいたしません。

花園
hanazono

「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

- 【花園】第71巻 第5号(通巻第837号)
令和3年5月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
- 【発行人】栗原正雄
【編集人】石田信行
【印刷人】喜田眞司
【発行所】京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400
電話／075-463-3121

表紙の絵 「躑躅(つつじ)」



鮮やかに一斉に咲き誇る、
この時を待ちわびていた。
絵・正親 里紗(おおぎりさ)

月刊『花園』1冊送りの年間購読料は、1,560円(税・送料込)です。
下記のお電話か、ホームページでお申込みください。

【妙心寺派宗務本所 頒布課】電話：075-467-2990

【妙心寺派直売店 web shop】

<http://www.myoshinji-shop.jp/fs/myoshinji/g05-0002>

*乱丁、落丁本はおとりかえいたします。